

ドクターG患者再現VTRのカンファレンスへの応用

千葉大学提供
作成日 2016年 3月10日
更新日 年 月 日



研究者氏名 いくさか まさとみ 生坂 政臣	所属機関 千葉大学医学部附属病院 総合診療科	関連キーワード(複数可) 医学教育、生涯教育、PBLチュートリアル、患者再現VTR、プライマリ・ケア、総合診療
主な研究テーマ ・患者再現VTRを用いたPBLチュートリアルの有用性に関する研究	主な採択課題 ・挑戦的萌芽研究 平成25～26年度(配分総額:2,080千円) 課題名「患者再現VTRを利用したPBLチュートリアルの有用性に関する研究」	

① 科研費による研究成果

・Problem-based learning (PBL)(問題基盤型学習)チュートリアルは臨床現場で応用できる知識の修得と自己学習能力開発を目的とした学習方法であるが、課題症例は紙媒体で与えられるため、非言語情報は割愛されてしまい、プライマリ・ケアにおける実臨床に必要な心理・社会面まで含めた幅広い領域での推論訓練は行われ難い。

・そこで、医学生のPBLチュートリアルにおいて、非言語情報や日常生活風景などの心理・社会的情報を容易に与えられる患者再現VTRを用いることにより、プライマリ・ケアの実臨床に即した幅広い領域での診断推論が行われるか否かを、従来の紙媒体を用いたPBLチュートリアルとの比較において検討した。

・その結果、患者再現VTRを利用すると、学生に心理・社会面を含めて多方面からアプローチする診療が意識づけられ、チューターへの負担も少ないなど、患者再現VTR利用のメリットを明らかにすることができた。



図1. 患者再現VTRを視聴する学生

② 当初予想していなかった意外な展開

・2015年7月、千葉大総合診療部主催の「千葉大GMカンファレンス2015」の診断推論カンファレンスにおける症例提示で、新たに作成した患者再現VTRを利用することで、当日参加した医学生、研修医、指導医の教育効果、満足度の向上に貢献した。また、当日は株式会社ケアネットの取材を受け、後日、同社のオンラインプログラムで公開され、生涯教育にも役立てられた。



図2. 千葉大GMカンファレンス2015

図3. (株)ケアネットオンラインプログラム

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

・作成コストは大きいですが、主要疾患の再現VTRを作成すれば、より実臨床に即した卒前・卒後教育、生涯教育における応用が出来、プライマリ・ケア医／総合診療医の育成にも大きく資するものと期待される。